上 氣 道 ニ 於 ケ ル 乾 燥 性 萎 縮 性 諸 疾 患 ノ 統 計 的 觀 察 及 ビ 血 液 中 「 カ ロ チ ン 」 「 ビ タ ミ ン 」 A 量

Dr. Hiroshi Tanaka: Statistische Beobachtung über Rhinitis
sicca anterior, Rhinitis atrophicans chronica, Ozaena genuina,
Pharyngitis sicca und Ozaena trachealis.

名古屋帝國大學醫學部耳鼻咽喉科教室 (主任 阿久根教授)

田
タ

中
ナカ

浩
ヒロシ

緒 言

乾性前鼻炎、萎縮性鼻炎、臭鼻症、乾性咽頭炎及ビ氣管「オツェーナ」ニ就テハ、從來諸學者ニヨリ詳細ナル統計的觀察報告セラレタル所ナルモ、其原因ハ未定ナリ。

余モ亦、上氣道ニ於ケル乾燥性、萎縮性諸疾患ニ就キ統計的觀察ヲ行ヒ、且ツ夫等患者ノ血液中「カロチン」、「ビタミン」A量ヲ測定セルヲ以ツテ其成績ヲ報告セントス。

觀 察 成 績

名古屋帝大耳鼻科ニ於ケル昭和 13 年ヨリ 15 年迄ノ外來患者 13441 名中ニ本諸疾患々者總數ハ 794 名ナリ。
萎縮性鼻炎 454 名、臭鼻症 17 名、乾性前鼻炎 46 名、乾性咽頭炎 265 名、氣管「オツェーナ」

ナ」12 名。

1. 季 節 別 (第 1 表)

2. 性 別 (第 2 表)

3. 年 齡 別 (第 3 表)

第 1 表

月 數	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII
萎 縮 性 鼻 炎	32	19	35	47	52	49	52	57	41	28	17	25
臭 鼻 症	3	2	0	2	6	0	0	0	0	2	0	2
乾 性 前 鼻 炎	3	4	4	3	5	7	5	2	6	5	1	1
乾 性 咽 頭 炎	14	12	31	26	27	32	25	26	16	19	27	10
氣 管 オ ツ ェ ー ナ	2	1	2	1	2	1	0	0	2	0	0	1

第 2 表

	男 性	女 性
萎 縮 性 鼻 炎	211 (2.4 %)	243 (4.9 %)
臭 鼻 症	6 (0.07 %)	11 (0.22 %)
乾 性 前 鼻 炎	18 (0.21 %)	28 (0.57 %)
乾 性 咽 頭 炎	112 (1.31 %)	153 (3.1 %)
氣 管 オ ツ ェ ー ナ	2 (0.023 %)	10 (0.2 %)

〔註〕 括弧内ハ外來男女總數ニ對スル百分率。

年 齡		1—10	11—20	21—30	31—40	41—50	51—60	61—70	71—80
萎 縮 性 鼻 炎		22	195	149	41	23	19	5	0
臭 鼻 症		0	11	3	2	1	0	0	0
乾 性 前 鼻 炎		10	17	5	3	6	5	0	0
乾 性 咽 頭 炎		0	71	92	43	38	16	3	2
氣 管 オ ツ ェ ー ナ		0	5	7	0	0	0	0	0

4. 本諸疾患ノ併發率

二乾性咽頭炎ヲ 50.0%

氣管「オツエーナ」	0	58.3%
-----------	---	-------

毎管「オツエーナ 8.3% 0

「オツエーナ」 10.0%

乾性咽喉炎	3.7%	13.5%	17.3%
-------	------	-------	-------

	年齢	性	カロチン	ビタミン A
加藤	16	♂	3.6	2.7
鈴口	27	♂	4.8	1.8
吉田	16	♀	2.4	2.3
横山	19	♀	9.6	1.6
國藤	20	♀	12.0	1.7
平均			6.5	2.0

		年齢	性	カロチン	ビタミン A
變	深	18	♂	1.6	痕 跡
富	成	24	♂	2.1	痕 跡
	森	38	♂	6.8	1.8
渡	邊	18	♀	6.4	1.4
鈴	木	18	♀	4.2	痕 跡
平	均			4.2	0.64

		年齢	性	カロチン	ビタミン A
岡	本	18	♀	7.5	1.1
田	口	18	♀	3.8	1.3
陶	山	21	♀	10.4	2.0
上	田	49	♀	4.5	1.1
平	均			6.6	1.5

		年齢	性	カロチン	ビタミン A
小	池	17	♂	1.5	1.1
小	林	18	♂	1.4	0.6
原	田	34	♂	1.8	1.1
池	戸	41	♀	10.2	0.9
吉	野	52	♀	5.6	痕 跡
平	均			4.1	0.8

乾性前鼻炎

	年齢	性	カロテン	ビタミン A
往	20	♂	2.6	0.8
増田	19	♀	5.4	1.4
佐々木	26	♀	5.0	1.5
平均			4.3	1.2

氣管オツェーナ

	年齢	性	カロテン	ビタミン A
大矢	28	♂	6.8	1.0
大坪	32	♀	2.5	痕跡
平均			4.7	0.5

總括及ビ考按

1. 頻度及ビ男女ノ比

本諸疾患總數ハ外來總數ノ 5.9%。男女ノ比 1:2.1 ナリ。(男女ノ比ハ外來男女總數ニ對スル百分率ヨリ求ム)。

萎縮性鼻炎

本諸疾患總數ノ 57.1%。外來總數ノ 3.3%。男女ノ比 1:2.04 ナリ。京大耳鼻科馬場氏ノ外來總數ノ 2.2%。男女ノ比 1:1.7 ナルニ比シテ本統計ハ稍々多シ。

臭鼻症

本諸疾患總數ノ 2.1%。外來總數ノ 0.13%。男女ノ比 1:3.1 ニシテ 東大耳鼻科渡邊氏ノ外來總數ノ 0.44%。馬場氏 0.84% ニ比シテ本統計ニテハ少シ。男女ノ比ノ渡邊氏 1:3。馬場氏 1:2.18 ニ對シ本統計ハ渡邊氏ニ略々等シ。

乾性前鼻炎

本諸疾患總數ノ 5.8%。外來總數ノ 0.34%。男女ノ比 1:2.7 ナリ。

乾性咽頭炎

本諸疾患總數ノ 33.4%。外來總數ノ 1.9%。男女ノ比 1:2.3 ナリ。

氣管「オツェーナ」

本諸疾患總數ノ 1.5%。外來總數ノ 0.089%。男女ノ比 1:8.6 ナリ。本諸疾患中最モ女性ニ多ク且ツ女性 10 例中 3 例ハ妊娠 5—9 ヶ月ナリ。本統計ニ於ケルモノハ萎縮性鼻炎 41.6%。

乾性咽頭炎 50 %ヲ有セルモ臭鼻症ヲ合併セズ。

2. 季節的關係

秦氏ノ統計(群馬地方)ニテハ萎縮性鼻炎及ビ臭鼻症ハ冬ヨリ春及ビ秋ヨリ冬ノ移行期ニ多クシテ夏ハ少シ。本統計ニテモ臭鼻症ハ夏ニ少ク。氣管「オツェーナ」ハ夏及ビ秋ニ少ク。乾性前鼻炎及ビ乾性咽頭炎ハ春ヨリ夏及ビ秋ニ多ク。萎縮性鼻炎ハ寧ロ夏期ニ外來ヲ訪ズルモノ比較的多キガ如シ。

3. 年 齡

萎縮性鼻炎及ビ臭鼻症ガ思春期ニ多キハ諸家ノ統計ノ示ス所ニシテ 本諸疾患ハ 11—20 歳或ハ 21—30 歳ニ最モ多ク。孰レモ 15—25 歳ニ於テ最高率ヲ示シ。殊ニ萎縮性鼻炎ニテハ男性 21 歳。女性 17 歳ニ最多數ヲ算ヘタリ。岡氏ハ 4 歳女兒ノ臭鼻症。大原氏ハ 1 歳未滿ノ萎縮性鼻炎及ビ臭鼻症ノ各 1 例ヲ記載シ。本統計ニテハ萎縮性鼻炎ヲ 3 歳男兒及ビ 6 歳女兒ニ認メンモ。幼年期ノ臭鼻症バナシ。

4. 耳 性 疾 患

臭鼻症ノ耳性疾患合併率ハ Zaufel 80%。Morf 55%。Wyss 53%。Ferreri 10% ナリ。本統計ノ中耳疾患合併率ハ臭鼻症 23.5%。萎縮性鼻炎 19.5%。乾性咽頭炎 18.1%。乾性前鼻炎 6.5% ニシテ 穿孔性中耳炎最モ多ク。次ニ單純性中耳炎ニシテ慢性症ハ急性症ニ比シ遙カ

ニ多ク、次ニ歐氏管疾病等ナリ。

5 鼻性疾患

副鼻腔蓄膿症ハ萎縮性鼻炎 14.9%、臭鼻症 11.7%、既往ニ鼻科手術ヲ受ケタル者ハ前者 9.2%、後者 11.7% ニシテ 所謂手術性削瘦性鼻炎ト認メラレシモノ 2 例アリ。

6. 口蓋扁桃腺肥大症

口蓋扁桃腺肥大症ノ合併率ハ乾性前鼻炎 31%ニ最モ多ク、少キハ乾性咽頭炎 17.7% ナルモ、中村(名古屋)及ビ久保(福岡)臨牀ノ一般外来患者ニ於テハ 11.4% 及ビ 9.97% ナルニ比シテ孰レモ合併率ハ高シ。

7. 結核及ビ黴毒

Fränke 及ビ Hartmann ハ臭鼻症患者ノ死因ハ大多數結核ナリトセルモ、本統計ニテハ一般ニ少ク、乾性咽頭炎ニテ 17.3% ヲ示セルハ Alexander 等ノ報告ノ如ク、肺結核ノ成立機轉ニ從屬的關係ヲ有スルモノナランカ。Sticker, Frese 等ハ先天性、後天性黴毒ヲ臭鼻

症ノ原因トナセルモ、Sobernheim, Eisenlohr, 赤松、鍋谷ノ諸氏ハ之ヲ否定セリ。余ノ統計ニテハワ氏反應ヲ検査セラレタルモノ比較的少ク、且ツ陽性ナルモノ亦少シ。

8. 血液中「カロチン」及ビ

「ビタミン」A量

臭鼻症ノ原因ヲ血液學的領域ニ求メントシテ、Fleischmann ハ臭鼻症患者ノ血液ニ「ヒョレステリン」ノ減少セルヲ報告シ、諸家ニヨリ確認セラル、所ナルモ、「ヒョレステリン」ノ減少ハ臭鼻症ノ原因ニアラズシテ、其状態ヲ説明セルモノト考ヘラレ、Glasscheib ハ「ヒョレステリン」ノ減少ガ「ビタミン」ノ缺乏ト並行セル事ニ於テ臭鼻症ノ原因ニ暗示ヲ與フト言ヘリ。

本諸疾患々者ノ血液中「カロチン」及ビ「ビタミン」A量ハ一般ニ減少シ、殊ニ「ビタミン」Aニ於テ著明ナルモノ、如シ。

結

論

1. 本諸疾患々者ハ 15—25 歳ノモノ最多數ヲ占メ、女性ハ男性ニ比シ、臭鼻症ニ於テ 3.1 倍、萎縮性鼻炎 2.04 倍、乾性前鼻炎 2.7 倍、乾性咽頭炎 2.3 倍、氣管「オツェーナ」8.6 倍ナリ。

2. 本諸疾患々者ノ口蓋扁桃腺肥大症合併率ハ高シ。

3. 本諸疾患々者ノ血液中「ビタミン」A量ハ減少ス。

稿ヲ終ルニ際シテ御懇篤ナル御示教及ビ御校閲ヲ
賜ハリシ恩師阿久根教授ニ謹謝ス。

主 要 文 献

- 1) 馬場: 大日耳鼻, 第28巻, 第3號. 2) Fleischmann: Zschr. f. Hals u.s.w. Bd. 14. 3) Glasscheib: Mschr. f. Ohren u.s.w. 65 jg. 4) 池田: 實驗消化器病學, 第13巻, 第2號. 5)

- 河野: 日本耳鼻咽喉科學全書, 第4巻1. 6) Menken: Deut. Med. Wschr. 38, II. 7) 渡邊: 大日耳鼻, 第20巻, 第2號.

(原稿到着ニ昭和 17. 5. 21)